膵血管筋脂肪腫の一例

◎卯月 美江[1)]、星 明朱佳[1)]、渡部 瑠理[1)]、瀧澤 宏子[1)]、阿部 浩子[1)]
公立大学法人 福島県立医科大学会津医療センター[1)]

【はじめに】血管筋脂肪腫は、脂肪細胞の存在する部位にはどこにでも発生する可能性がある。腎臓の皮質や肝臓に発生することが多く、膵臓に発生することは、非常に稀である。今回、我々は膵臓の血管筋脂肪腫の一例を経験したので、その内容について報告する。【症例】88 歳、男性。繰り返す右季肋部痛があり、近医を受診。症状の改善がないため、精査目的に、当院へ紹介された。スクリーニング目的に腹部超音波検査を実施した。【腹部超音波検査結果】胆嚢の体部に、音響陰影を伴う φ5ｍｍ大の高エコー像を認めた。体位変換による可動性を認め、胆嚢結石が疑われた。また、膵臓の頭部に 26×17ｍｍ大の低エコー腫瘤像を認めた。カラードプラによる血流シグナルを認めず、主膵管の拡張、腫大などは認めなかった。腹部超音波上は、膵癌、悪性リンパ腫、膵島細胞腫などを疑った。【造影 CT 所見】膵頭部に、一部脂肪濃度を含む結節性病変を認め、膵血管筋脂肪腫が疑われた。【造影 MRI 所見】膵頭部に、脂肪抑制にて信号低下する腫瘤様構造物を認めた。造影 CT 同様、膵血管筋脂肪腫が疑われた。【考察】膵の血管筋脂肪腫は、極めて稀な疾患である。厚壁の血管ならびに平滑筋、それに脂肪組織が混在して腫瘍を形成し、通常被膜を持たない。膵の血管筋脂肪腫の超音波所見は、輪郭は、明瞭、不明瞭ともに報告されており、形状は整～不整、エコー輝度は、低～高を呈し特異的な像はない。低エコーを呈する疾患としては、膵癌、内分泌腫瘍、悪性リンパ腫などが鑑別に挙げられる。文献上は、膵血管筋脂肪腫の確定診断には、CT の所見が有用とされている。本症例において低エコーを示したのは、①脂肪組織と非脂肪組織の混在の度合いによるもの②膵に脂肪沈着が起こるとエコー輝度は増強するが、低輝度を呈するのは、周囲の膵実質が線維化および細胞密度の増加によって高輝度エコーになり、脂肪部分が相対的に低輝度を呈するためなどと考えられた。
【まとめ】稀な膵血管筋脂肪腫を経験した。膵臓において、低エコー腫瘤像が描出された場合には、膵血管筋脂肪腫も視野に入れながら検査をすすめていきたいと考える。

連絡先：0242-75-2100　内線 1149